

沼田町化石館だより

2021年7月21日 116号
この化石館便りのカラー版は化石館のホームページと、沼田町教育委員会のブログからご覧いただけます。

化石採取会が開催されました！

『沼田町化石館だより』にて宣伝していました化石採取会が、7月11日と17日に無事開催されました！今年はまちの重要な財産である化石の保護と新型コロナウイルス感染症対策のために募集人数と開催日数を大幅に減少させての開催でしたが、「キャンセル待ちのキャンセル」を行うほど多くの方々にご応募いただきました。

両日ともに快晴で、炎天下のなか参加者全員がそれぞれが思い思いにタカハシホタテを採取し、終始驚きと笑い声の絶えない大変にぎやかな採取会となりました。また、7月11日には化石館の名誉館長であり沼田町はもとより北海道各地の化石発掘を長年リードしてきた木村方一氏が館内の展示解説を行い、ユーモアに富んだ解説に参加者は真剣に耳を傾けていました。

今年度の化石採取会も残るところ8月1日の1回となります。学芸員と化石体験館のスタッフは参加者の方々の化石採取という「特別な体験」が少しでも充実したものとなるよう今から準備を着々と進めております。

来年度は町民の方々にも多く参加いただき、自分たちの踏む大地がどのように形成されたのか、そしてどのような歴史を経てきたものなのかを

タカハシホタテの採取を通じて学んでいただけると嬉しいです。どなた様もぜひお気軽にお申込みください！少々気が早いですが、みなさまのご参加を、スタッフ一同首を長くしてお待ちしております！



▲今年度の化石採取会の様子（右）

只今、化石体験館は営業時間を短縮して営業を行っています。

営業時間 9:30~16:00（最終入場：15:30）

ミニ発掘は「お持ち帰り」にてご対応させていただいております。
8/22まで、「まん延」地域よりお越しのお客様の入館を制限しております。

ヌマタネズミイルカ：まちの宝から世界の至宝へ

『化石館だより』5・6月号裏面と『広報ぬまた』6月号の「生涯学習ゆめつくる」にて少々しつこいくらいご紹介していたヌマタネズミイルカは1985年に町内の河川で発見されてから今日まで、後世の人々に残すべきまちの貴重な財産のひとつとして沼田町で大切に管理されてきました。また、2019年には道の天然記念物に指定され、町内だけでなく北海道のなかでも非常に価値のある財産として扱われています。そんなヌマタネズミイルカが、今度は「**世界中の至宝**」になろうとしています。

その理由は、道の天然記念物指定を契機として2019年より町内に設置されているレプリカ工房にて、ヌマタネズミイルカの「世界で最も厳密で美しい」全身骨格模型を作製しているためです。そして、そんな全身骨格模型は来年の春にお披露目を行うことが決定しています。何がどう厳密なのか、そしてどんなところが美しいのか、それはお披露目の際にぜひみなさまの耳と目で直接お確かめください！

全身骨格模型の完成まで、これからも『沼田町化石館だより』等でみなさまに小出しにお知らせしていきたいと思っておりますので、これからもどうぞご注目ください！！



学芸員のひとり言：幼少期の習慣

化石や鉱物好きでいつも色々な石を拾って歩いていた自身の幼少期を振り返ると、ポケットいっぱい集めた石を取り出さずに服を洗濯機に入れたり、家族の共有スペースに所狭しと石を並べてみたり、特に母に対して非常に迷惑な子どもだったと思います。何度注意を受けても道端の石を拾う習慣は抜けなかったものの、気づけば幸運にも仕事として化石などの石を拾える日々を過ごしています。

そうした経験から、体験館で実施している「ミニ発掘」で発掘した石大切に持って帰る子どもを目にする度に、「この石が洗濯機のなかで見つかったら、どうかお許しください！」と暗に心の中で念じてしまう自分がいます。

沼田町化石館だより 2021年7月号 第116号
発行 / 沼田町化石館 編集 / 長野あかね

〒078-2202 北海道雨竜郡沼田町南1条4丁目

電話 / FAX 0164-35-2132 / 0164-35-1210

メールアドレス kyoiku@town.numata.lg.jp（教育委員会）

ホームページ <http://numata-kaseki.sakura.ne.jp/index.shtml>



（体験館 HP）



（公式 Facebook）

化石館便りは毎月第4木曜日発行。次回は8月19日です。



3分でわかる

タカハシホタテ①

① タカハシホタテは約 700 ～ 100 万年前の寒冷な海に生息していた二枚貝です。ちなみに、研究者の間では「タカハシホタテ = 沼田」といわれるほど、沼田町はタカハシホタテの一大産出地として広く知れ渡っています。

③ タカハシホタテは成長に伴い一方の殻が大きく脹らんでいきます。生まれて間もない子どもの殻は、よくスーパーで目にする「ホタテの稚貝」のような左右の殻が平坦なかたちをしています。

② 「タカハシ」という名前は樺太（現：サハリン）の大泊で中学の博物課に勤務していた高橋教授という方の名前が由来になっていますが、なぜその人の名が付けられたのか、実は明らかになっていません。



次回は目からうろこ！
タカハシホタテの秘密を大公開！

